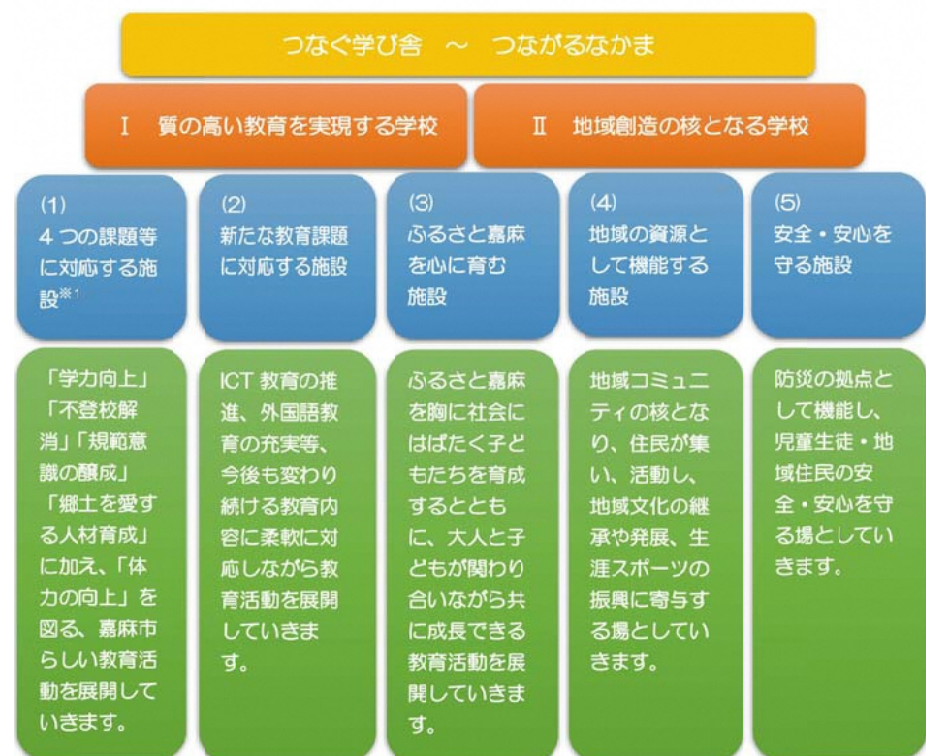


1 基本計画策定の目的

■基本計画策定の目的

「嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針」を踏まえ、碓井中学校区の特色を生かした整備の具体化を図ることを本計画の目的とします。

■施設整備の基本方針

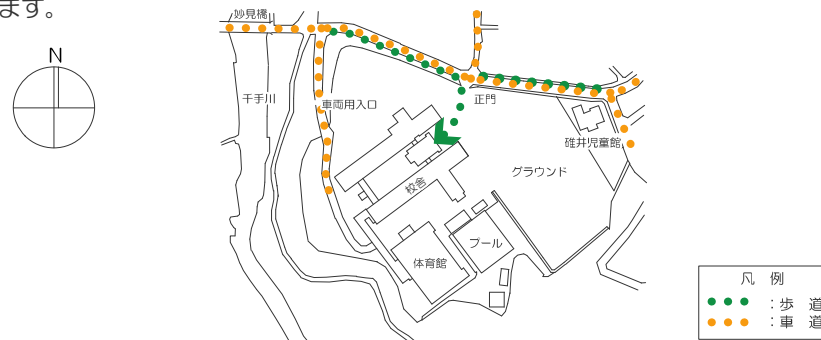


※1：4つの課題とは、嘉麻市教育の目標である「就労できる力」を達成するために、教育委員会の重点課題として取り組んでいる「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」

2 計画候補地の現況及び課題

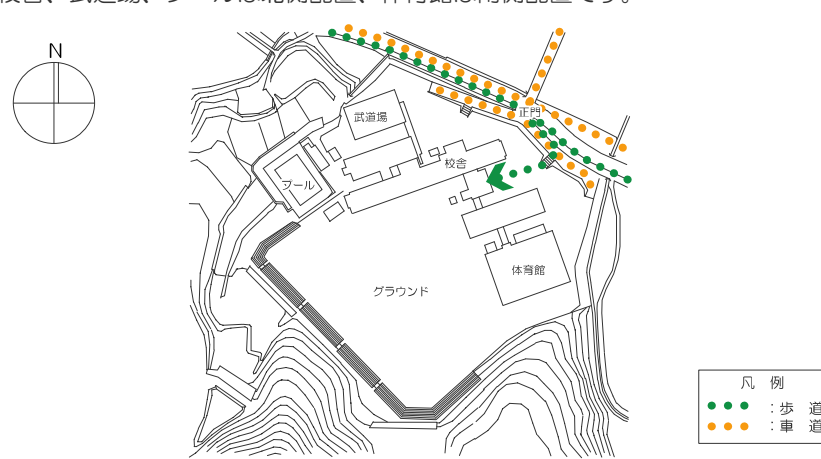
■碓井小学校の現状

校舎は西側配置、体育館とプールは南側配置、グラウンドは近隣住宅地に近接しています。



■碓井中学校の現状

校舎、武道場、プールは北側配置、体育館は南側配置です。



■碓井小学校敷地と碓井中学校敷地の比較検討

碓井小学校敷地と碓井中学校敷地について、以下4項目の比較を示します。

比較項目	碓井小学校敷地	碓井中学校敷地
敷地面積	約35,000㎡	約27,000㎡ ・職員駐車場の確保が困難 ・200mトラックのグラウンド確保が困難
安全性	高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。	敷地全体 「土砂災害警戒区域に指定」 福岡県土砂災害ハザードマップ 平成27年1月
碓井中学校敷地に係る特定工事概算費用	—	約4億円（実績より） ・工事用仮設通路補強費 ・土砂災害対策費（擁壁設置等） ・崖上施工による杭延長費 ・仮設校舎費
計画候補地としての適性	○	△ 敷地面積狭小及び土砂災害警戒区域指定

■計画候補地の決定

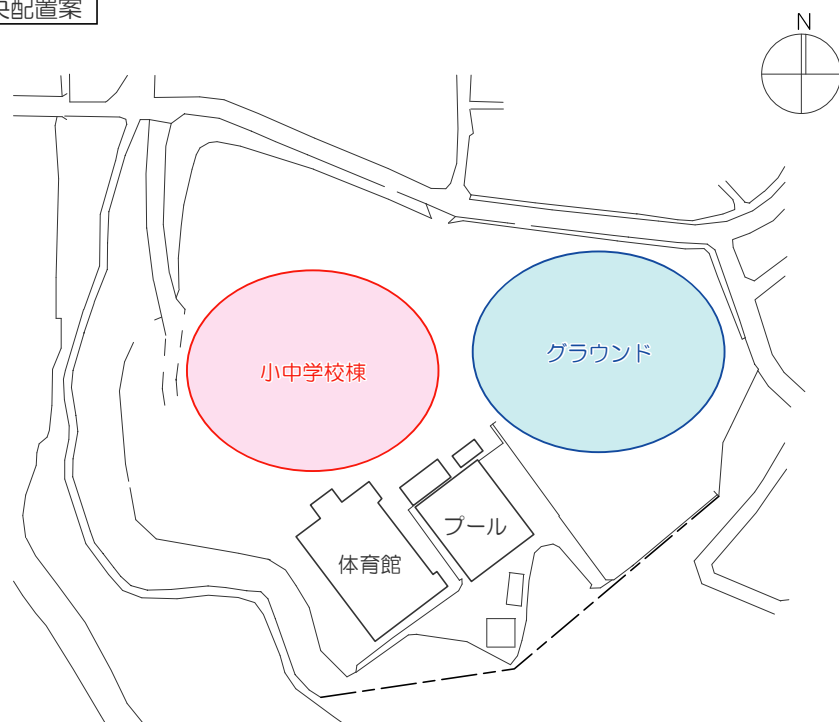
碓井中学校区の計画候補地については、美術館などの教育文化施設とも近接しており、更なる教育エリアとしての形成が見込まれることや、敷地面積や安全性等の観点から、碓井小学校敷地を計画候補地とします。

3 配置計画

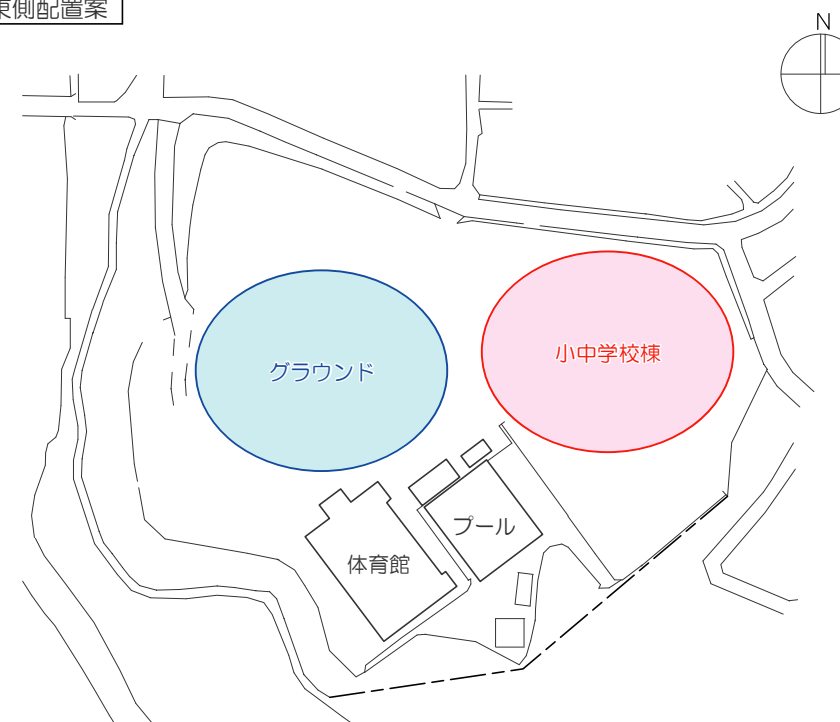
■配置計画の比較検討

碓井小学校敷地内での配置計画について、中央配置案と東側配置案の比較を示します。

中央配置案



東側配置案



■配置計画の比較検討

項目	中央配置案		東側配置案	
	中央配置案	東側配置案	中央配置案	東側配置案
校舎の配置	新校舎の位置	・現校舎側に建設	—	・現グラウンドに建設
	周田への影響	・影響少ない	○	・住宅地側に新校舎移動 ・日景、電波障害に配慮
	歩車動線分離	・分離可能	○	・分離可能
施工時の影響	仮設校舎の有無	・仮設校舎使用有	△	・仮設校舎使用無
	校舎建築関係期間	・約2.5年（仮設校舎分）	△	・約1.5年
	工事期間中の児童への影響	・環境の変化大（仮設校舎） ・工事箇所との距離近	△	・グラウンドを隔離して施工可能
	グラウンドへの影響	・現グラウンドを使用	○	・仮設グラウンド必要
	体育館への影響	・施工箇所と近接 ・利用者への影響有	△	・施工箇所と分離 ・利用者への影響無
配置計画の適正	△		○	

共通事項として、体育館、プールは経過年数が短く、著しい老朽化も見られないため、利用できるものについては改修を行い、引き続き利用をしていきます。

■配置計画の決定

碓井中学校区の配置計画については、仮設校舎建設による財政面の負担や児童の学校生活への影響等の観点から、新校舎をグラウンド側に整備する東側配置案とします。

4 学校規模・平面計画

■校舎面積

碓井中学校区の小中一体型校舎における校舎面積の算定方法は、特別教室などを共有するため、30人以下学級における学級数を基準とし、中学校の算定基準表に準じて算定することとします。

碓井中学校区の校舎計画面積は、約7,500㎡とします。

■教室形状

小中一体型校における普通教室の形状は、「学年段階の区切りに対応した空間構成」とします。

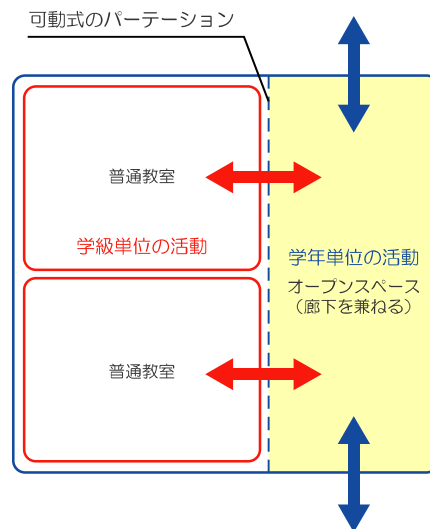
＜小学校＞

- オープンスペース型とし、学年ごとにユニットを構成します。
- 広い廊下がオープンスペースを兼ね、学年単位でのまとまりを重視します。
- 普通教室とオープンスペースの間には可動式のパーテーションを設置し、学級単位の活動に対応します。

＜中学校＞

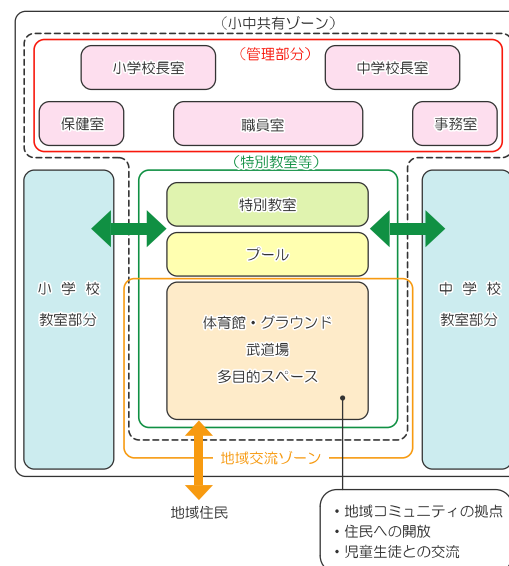
- 生徒が主体的に学ぶことを重視して、大型モニターなどの情報機器を備えた教科教室を配置します。
- 落ち着いた学級活動が確実に実施出来るよう、普通教室同様のホームベース (HB) を配置し、教科教室を配置していない教科についてはHBで授業を実施します。
- 教室外にロッカースペースを配置することで、十分な収納スペースを確保し、生徒が授業に集中できる室内環境を目指します。

HB：ホームルームなどの学校生活を行う上で、拠点となる教室のこと。



■配置ゾーニングの考え方

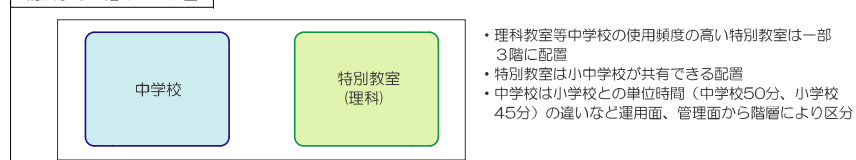
- (1) 車両と歩行者を明確に分離します。
 - (2) 諸室
 - 管理諸室は、全体が見渡せる配置とします。
 - 小学校中高学年は、中学生を意識できる配置とします。
 - 中学校は、小学校との単位時間の違いなどの運用面、管理面に配慮した区分とします。
 - 特別支援学級は、交流学級と連携のしやすい配置とします。
 - (3) 「地域交流ゾーン」は、地域住民の方々も利用しやすい配置とします。
 - (4) 特別教室、管理諸室を小中学校で共有化し施設全体をコンパクトに集約します。
- 地域交流ゾーン：地域コミュニティの拠点として、児童生徒と地域住民が交流を図れるゾーンのこと。



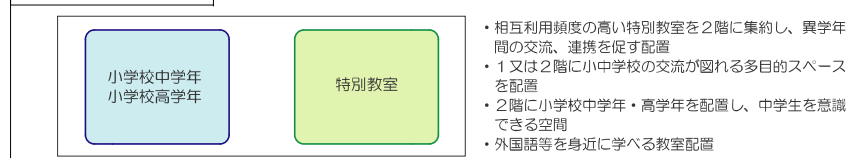
■各階ゾーニングの考え方

- (1) 小中学校が独自性を保ちつつ、学校・地域と連携しやすい構成とします。
- (2) 小中学校の交流、連携のための「多目的スペース」を小中一体型校舎の中心に配置し、特色のある教育活動を推進します。
- (3) 小中一体型校への移行により、学校間の交流、連携を行いやすくするため、施設全体をコンパクトに集約し、配置します。
- (4) 敷地広さの制約や小中学校の単位時間の違いなどの運営面・管理面から、階層により区分します。

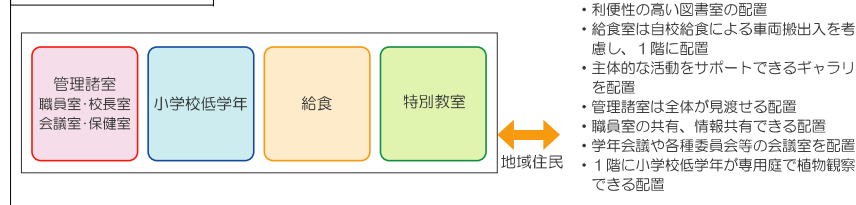
構成する3階イメージ図



構成する2階イメージ図



構成する1階イメージ図



5 構造計画・設備計画

■構造計画の検討

小中一体型校は、地震災害時の避難所としての施設でもあるため、一般の施設に比べ、大地震動に対する安全性を確保しておく必要があります。よって、耐震安全性の目標は官庁施設の耐震基準で定められている重要度係数に従い、保すべき性能を確保します。また、避難施設として備蓄倉庫などの整備を計画します。

■設備計画の検討

本計画において、以下の4つを設備計画の考え方とします。

- (1) 「維持管理しやすい設備」
信頼性や安心性・操作性が高く、維持管理しやすい設備とします。
- (2) 「時代の変化に対応できる設備」
時代の変化や技術の進展に柔軟に対応できる設備とします。
- (3) 「環境に配慮した設備」
エコスクール概念を取り入れ、自然と共生できる設備とします。
- (4) 「安全・安心を守る設備」
災害時避難施設として必要な機能を備えた設備を計画します。

6 事業計画

■事業スケジュール (案)

各発注方式別に、基本設計から実施設計、施工、工事完了までの全体工程表を比較します。

方式	期間	1年目	2年目	3年目	4年目	
設計・施工 分離発注方式	基本設計	基本設計 (完了)	実施設計 (完了)	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備
	実施設計	実施設計 (完了)	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備	
	校舎新設	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備		
DB方式	基本設計	基本設計 (完了)	実施設計 (完了)	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備
	実施設計	実施設計 (完了)	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備	
	校舎新設	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備		
基本設計先行 DB方式	基本設計	基本設計 (完了)	実施設計 (完了)	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備
	実施設計	実施設計 (完了)	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備	
	校舎新設	校舎新設 (14か月)	既設校舎等解体	グラウンド整備		

今回の碓井中学校区小中一体型校舎施設整備については、以下の条件が想定されます。

- (1) 工期短縮の可能性
- (2) 高度な技術力、知識、情報等の採用
- (3) スケジュールの遵守

以上のことから、基本計画の実現、社会環境の変化等の多様な条件に対応可能な発注方式を検討していきます。

■概算事業費について

建設工事費算出に係る単価を、近隣実績から建設単価約30万円/㎡程度、改修単価約10万円/㎡程度とし、配置計画、各階平面計画等に基づき概算事業費を以下のとおり試算しました。なお、外構工事等の現時点で試算することが困難な費用については、概算事業費に含まれておりませんので、引き続き検討していきます。

項目	金額	備考
建設工事費	2,800	校舎新設 学童保育所棟新設 武道場兼サブアリーナ棟新設 プール棟改修 体育館棟改修

※現時点で可能な範囲で試算しています。